

# 東都文京 だより



2022年1月1日 第28号

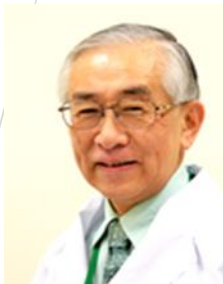
発行：医療法人社団大坪会  
東都文京病院広報委員会

〒113-0034

東京都文京区湯島3-5-7

TEL: 03-3831-2181

## ～2022年年頭のご挨拶～



新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、年末・年始の行事を自粛する静かなお正月を本年も迎えることになりました。2020年3月12日にWHOがCOVID-19のパンデミック宣言をしてから1年9か月になりました。国内のワクチン2回接種率は80%を超え、第5波以降の沈静状態が続いていましたが、オミクロン株による感染者の国内発生が報告され、感染者数のゆっくりとした増加が始まりました。累積感染者数は(12/24現在)、世界全体で2億7624万人を超え、米国5,196万人、日本173万人、死亡者数と死亡率は(12/24現在)、世界全体で536万9千人(1.9%)、米国81万6千人(1.6%)、日本1万8千人(1.1%)となっています。多くの国で3回目のワクチン接種が始まりましたが、オミクロン株感染の拡大は続いており、予断を許さない情勢です。一方、内服治療薬が開発され、日本でも使用が開始されようとしています。早期の終息を祈るばかりです。

さて、東都文京病院はコロナ禍のこの1年も、地域医療ネットワークの中で、その役割を果たしてきました。東京都の要請に応じて、発熱外来、PCR検査、COVID-19(中等症以下)患者さんの入院受け入れなどの体制を維持・強化してまいりました。スタッフから感染者を出さないこと、院内感染を起こさないこと、などを心掛けながら、できるだけ一般診療を継続する努力も続けてまいりました。コロナ禍でも病院財務のバランスを保つことができましたのは、スタッフの努力に加えて、皆様のご理解、ご支援の結果と、心から深く感謝しております。

東都文京病院は、COVID-19沈静化の先を見据えて、10年後の地域医療ニーズに応えられる新病棟を3年後に建設する基本構想を立

(裏面に続く)

(つづき)

案しています。また、診療体制強化として、内科・外科・産婦人科医師の補充・補強を3月・4月に行う予定です。

今後とも皆様のご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

2022年元旦

東都文京病院院長 杉本 充弘

文京コラム

## その症状は大丈夫？-睡眠時無呼吸症候群について

たっぷり寝ているはずなのに眠い、昼間は座っていると決まって眠くなる、夜寝ている間に何度もトイレに起きる...このような症状を感じたことはないでしょうか。一見よくあることのように思いますが、これらは全て睡眠時無呼吸症候群の症状として言われています。いびきや睡眠中の無呼吸を自分自身で気付くことはできません。ベッドパートナーからの指摘があるのが一番ですが、その指摘がない場合は睡眠時無呼吸症候群に気付いていない可能性もあります。

睡眠時無呼吸症候群には、閉塞性・中枢性・混合性(閉塞性+中枢性)の3種類がありますが、閉塞性が多い割合を占めています。起きている時は上気道を開くためにオトガイ舌筋などの働きが加わっていますが、睡眠中はその働きが弱くなるため上気道が狭くなり空気が吸えない状態となります。肥満が大きな原因として言われており、体重が10%増加すると閉塞性睡眠時無呼吸症候群の発症リスクは6倍になると言われています。一方でやせている方でも顎が小さい、舌が大きい、扁桃腺が大きい、鼻腔が狭い方は発症しやすいと言われています。

年齢とともに発症割合が増加していくことも特徴で、50代女性、50代男性の発症率はそれぞれ10%弱、10~20%に対し、70代女性、70代男性の発症率はそれぞれ10%、20%を越える状態となっているため比較的身近な病気と言えるかもしれません。

検査は2種類、外来で行える簡易検査と、より精密な検査で1泊2日の入院が必要になるポリソムノグラフィがあり、これらの検査結果をもとに患者様のご希望もろかがいながら治療の選択をしていくこととなります。睡眠時無呼吸症候群は高血圧、脳梗塞、心疾患など様々な生活習慣病との関わりも大きいとされています。

もしかするとこの症状は睡眠時無呼吸症候群かしら...と思われたら、是非検査をしていただき安心していただけたらと思います。



内科 汐崎 紗知子

詳しくは病院ホームページもご覧ください。

<https://www.tohtobunkyo-hp.com>